

### ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス

### 保毒虫率が高い地域があります

### 本田に飛来するヒメトビウンカの防除に努めましょう

[現在の発生状況]

- 平成 25 年 3 月に、ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率を調査したところ、筑西市二木成、野殿、西方で 15%以上と高い地点があった（表 1）。
- なお、昨年 10 月に水稻刈取後のヒコバエ（再生稲）において、イネ縞葉枯病の発病株率を調査したところ、筑西市二木成及び野殿では 20%以上であった（表 2）。

表 1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

調査地点	25年の保毒虫率 (%)	参考			
		24年の保毒虫率 (%)	23年の保毒虫率 (%)	平年値 (%)	
筑西市	二木成①	17.7	17.7	—	
	二木成②	8.3	3.6	0	
	野殿	15.1	15.1	3	
	西方	20.3	14	5.4	
つくば市	大形	3.7	1	0	0.6
結城市	大谷瀬	4.7	2.1	0	2.6
	山川新宿	7.8	—	—	—

(平成 25 年 2 月下旬～3 月上旬採取)

- ・平年値は過去 10 年の平均保毒虫率。
- ・二木成①は前作水稻圃場の畦畔等から採取。二木成②は前作ダイズ圃場周辺の雑草地から採取。
- ・—は未調査。

表 2 ヒコバエにおけるイネ縞葉枯病発病株率

調査地点	調査圃場数	24年の発病株率 (%)	参考				
			23年の発病株率 (%)	22年の発病株率 (%)	21年の発病株率 (%)	20年の発病株率 (%)	
筑西市	二木成	10	25.3	32.1	10.3	10.7	4.5
	野殿	5	24	18.9	1.6	8.7	—
	久地楽	5	1.7	8.8	0.5	3	1.7
	海老ケ島	5	3.9	6.5	0.1	—	1.1
結城市	大谷瀬	5	0.5	0	0.7	3.8	8.4
桜川市	西小埜	5	0.1	1.2	0	—	0.3
下妻市	高道祖	5	2.7	0.2	—	—	—
常総市	本豊田	5	1.9	—	—	—	—
坂東市	上出島	5	1.7	0.3	—	—	—
つくば市	大形	5	8.5	0.1	0.3	0.3	—
	今鹿島	5	1.5	—	—	—	—

調査日:平成24年10月10,11,15日 1圃場あたり300株を見取り調査。  
—は未調査。

[媒介虫の移動と防除対策]

- ① イネ縞葉枯病の原因であるウイルスはヒメトビウンカにより媒介される。雑草地や水田畦畔等で越冬したヒメトビウンカは、春先になると麦畑へ移動して増殖し、6月上旬頃から麦の収穫期にかけて水田に侵入する。このため、麦畑に隣接する圃場では特に本病が発生するリスクが高い。
- ② ヒメトビウンカを対象に育苗箱施薬を行うと、本病の発生を抑制する効果があるので(図1)、特に保毒虫率が高かった地点など、昨年縞葉枯病の発生が多かった地域では防除を行う。なお、薬剤については表3を参照する。

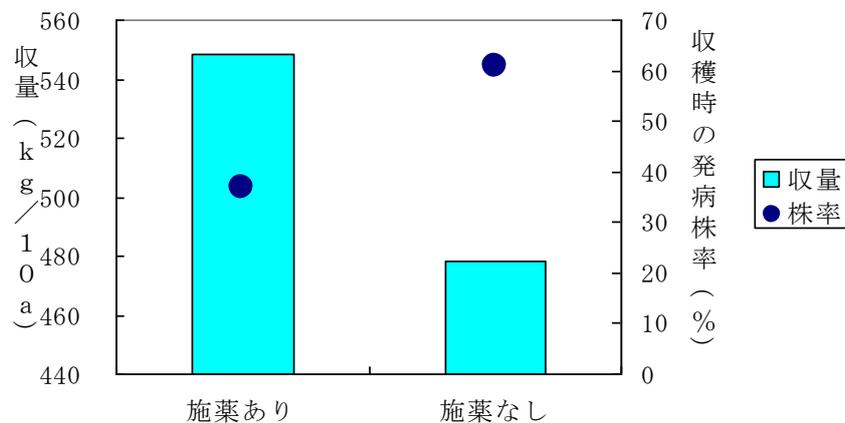


図1 育苗箱施薬の有無とイネ縞葉枯病発病株率及び収量の結果 (5月15日移植)  
(農業総合センター農業研究所病虫研究室調べ (平成24年))

表3 稲育苗箱のヒメトビウンカに使用できる主な薬剤 (平成25年3月12日現在)

薬剤名	使用量(育苗箱1箱当たり)	剤の使用回数	有効成分
アクタラ箱粒剤	50g	1	チアメキシサム
アドマイヤーCR箱粒剤	50g	1	イミダクロプリド
ガゼット粒剤	50~70g	1	カルボスルファン
ダントツ箱粒剤又はワンリード箱粒剤08	50g	1	クロチアニジン

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を必ず確認のうえ使用する。